



2026年2月27日

各 位

会社名 株式会社 ハークスレイ
代表者名 代表取締役会長兼社長 青木 達也
(コード番号：7561 東証スタンダード市場)
問合せ先 総務部長 中野 雅哉
(TEL. 06 (6376) 8088)

本日公表のJリーフ株式会社の株式の取得(子会社化)についてのQ&A

Q1：何故、当社グループでレタス栽培事業を行うのか？(買収目的)

- ・ **当社戦略との整合性・適合性**

当社が2024年6月に公表した中期経営目標における成長戦略では、食品製造、冷凍食品製造、菓子製造等の分野だけでなく、農産・水産・畜産等の分野でもM&Aを通じた成長投資を積極的に実行することとしており、本件は中期経営目標で掲げた成長戦略に合致しています。

- ・ **農業分野への参入**

当社グループの事業ポートフォリオの観点から、本件は「当社グループの農業分野への進出」という意味を持ち、本件が実現した場合には、食に関わる一連のバリューチェーン(生産から小売まで)を網羅することとなるため、「食のインテグレーショングループ」を標榜している当社が目指すべき方向性に合致しており、事業ポートフォリオ戦略の観点から適合性があります。

- ・ **成長市場への参入**

植物工場レタスは、今後も成長が見込まれる市場であり、これを取り込むことで当社企業価値の向上に寄与するものと考えています。

- ・ **社会課題の解決に資する事業として**

従来の野菜の露地栽培は、過酷な屋外作業や熟練の経験則に依存する部分が多いこともあり、高齢化や担い手不足が深刻で、食料自給率の観点からも大きな課題となっています。また、近年は、猛暑や台風、長雨などの異常気象が常態化し、露地野菜の価格高騰や品不足が消費者・実需者の家計や経営を圧迫しています。植物工場はこれらの課題を「生産の工業化」によって解決するものであり、本件により、人口動態の変化や気候変動に強い「次世代型食料インフラ」の構築に寄与したいと考えています。

- ・ **製造工程における省人化・自動化ノウハウの獲得**

植物工場を運営することで培われる製造工程における省人化・自動化のノウハウは、当社グル

ープ内の既存食品工場や店舗運営の生産性向上に転用可能であり、グループ全体の成長に寄与し、中長期的な競争優位性の確立に繋がるものと考えています。

Q 2 : 既存事業とのシナジーはあるのか？

現時点で想定しているシナジーは以下のとおりです。

・ **販売**

アサヒ L&C、ホソヤコーポレーション、稲葉ピーナツ、谷貝食品など当社グループ会社が保有する幅広い販売ネットワーク（流通小売業、中食・外食事業者・食品卸会社等とのネットワーク）を活用することにより J リーフの販路拡大と外部市況に左右されない安定した供給体制・販売基盤の構築を想定しています。

・ **商品開発**

植物工場産レタスの「低菌・高鮮度」特性を活かしたグループ横断型の商品開発が可能となります。

・ **物流**

既存グループ会社の利用している配送ルートと混載・統合することで、物流コストの削減が可能となります。

・ **人材**

ホソヤコーポレーションなど当社グループの食品製造会社と人的交流を行うことにより、商品開発、生産、技術、品質管理等のノウハウを共有し、グループ全体の商品開発力・製造能力・製品の安全性・品質の向上を図るとともに、グループ全体としての人的リソースの効率的配置を図ります。

また、外国人採用支援を得意とする当社グループ内の人材紹介会社 TRN Global Career の活用により、適時・適切な採用と配置を行い、人手不足による製造工程におけるボトルネックを解消します。

Q 3 : J リーフの強み（優位性）は何か？

- ・ 他の国内植物工場の栽培日数は、80g/株 40 日程度だが、同社は 100g/株 28 日程度と短いため、生産効率が高い。
- ・ 1 株あたりの重量調整（例えば 100g、130g）が容易であり、需給や顧客ニーズに対応した生産株数の柔軟なコントロールを可能とし、在庫ロスの最小化にも繋がる。
- ・ 業務用、小売用（家庭用）と双方に対応できる汎用性。
- ・ 東関東自動車道酒々井 IC まで 30 分、圏央道松尾横芝 IC まで 15 分の立地にあり、遠方の露地レタス産地と比べて首都圏のアクセスが良く、供給、輸送コストなどの面で有利。

Q 4 : 買収資金の調達は？

本件の買収資金は自己資金でまかないます。

Q 5：改めて、当社のM&Aの基本方針を教えてください

M&Aを活用することにより「食の領域」において、事業ポートフォリオの最適化を図るコングロマ
リット経営を推進いたします。収入源の分散による収益の安定化に加え、事業間のシナジーを創出す
ることで収益性を追求し、持続的な成長による株主価値の最大化を目指してまいります。

Q 6：国内完全人工光型植物工場産レタス類の市場規模推移・予測について教えてください。

現状 200～210 億円程度で増加基調と予測しております。（自社調べ）

近年は天候不順の激化により、露地野菜の値段は乱高下していることから、供給量と品質が一定で
ある植物工場野菜の需要は、業務用・小売用分野ともに拡大傾向にあります。

食の安心・安全の面からも、異物混入のリスクの低い植物工場野菜の引き合いは高まる傾向にあり、
また洗浄などにかかる手間を軽減でき、植物工場野菜は今後の需要の伸びが期待できます。

（ご参考）Jリーフの主要商品



以上